

地引網体験に参加して

香川県立保健医療大学 看護学科2年 富山 紫央里

地引網に参加して、足が不自由な方、知的障害のある方、そして幅広い世代の方と交流することができて良かったです。レクリエーションでどの場所でもどのような方法なのかを考え、実行するのは周りとの協力が必要ということを実感することができました。また、達成感も感じることができました。全員が楽しめることを第一に考えたので、参加者の方の笑顔が見られて本当に良かったと思います。貴重な機会をいただきありがとうございます。

香川県立保健医療大学 看護学科2年 鈴木 詩織

高齢者から幼児まで幅広い年代の方とコミュニケーションをとるととてもいい機会でした。レクリエーションを考える時に、年代に偏りが出ないように、またハンディキャップがないようにしつつも全ての人を楽しめることができるゲームを考えることがとても難しかったです。自分から人とかかわる姿勢を持つことの大切さを学ぶことが出来ました。普段の生活では経験のできないことが多くあり、機会があればまた参加したいと思いました。ありがとうございました。



香川県立高松東高校2年 I. Y

私は、クラブ会員の城山さんとペアで活動をしました。バスを降りてから城山さんが車いすで移動を始めたけど、私はすぐに車いすを押して補助する事が出来なかったのも、もっと積極的に行動すれば良かったです。話はたくさんできました。車いすの押し方などの注意点も学べたので良かったです。また、相手の方が伝えたいことを、自分から理解しようとする必要だとわかりました。

香川県立高松東高校2年 T. T

僕が、今回のボランティアに参加して学んだことは、周りをよく見て自分の出来ることを探すことです。地引網体験では、地引網をおこなう場所までの移動をする時に自分だけでどんどん行かず、参加者のペースに合わせて歩くことができました。また、レクリエーションのビンゴゲームでは参加者と一緒に数字を確認しながら楽しむことができました。反省点は、地引網終了後、魚を入れたクーラーボックスの運搬をすぐに手伝いに行けなかったことです。

お疲れさまでした😊 快晴で空気もよく潮騒ながめとても良かったです。彼のさばいたタイの食感最高でした😊
東高の車椅子介助の彼女に感謝 学生さん達フレッシュでいいですね！
スタッフの皆さんにもよろしくです。 会員 城山 とみ子



「津田の松原行きのリハセンターバスは揺れませんか？」と運転手さんに確認。
「大丈夫ですよ」との安心を頂いて出発です。

行く途中、東高校の学生と実行委員の森澤さんが乗って来ました。森澤さんが「今日、高岡さんに付いてくれるボランティアさんは『森さん』です」と言ってくれました。僕の好きな森君と同じ苗字です。嬉しくて満面の笑みで握手をしました。「よろしくお祈りします」砂浜を歩く時も地引網を引く時も森さんは僕の傍にいてくれました。嬉しかったです。他のボランティアさん達とも沢山お喋りをしました。僕は、氷川きよしのズンドコ節を知っているけど、森さんは、知らないそうです。一緒に歌ったかったのに残念。砂浜を歩きながらそんな話に花が咲きました。

地引網をした後、イントロ当てやビンゴゲーム等を楽しみました。医療大学の学生さんが捌いてくれた鯛のお刺身、皆で「美味しいね」と言いながら食べました。お家でも鯛の刺身を美味しく食べました。大勢のボランティアさん達との触れ合い、満足・満腹な一日でした。ありがとうございました。

会員 高岡 祥司(母が代筆)

地引網体験に参加して

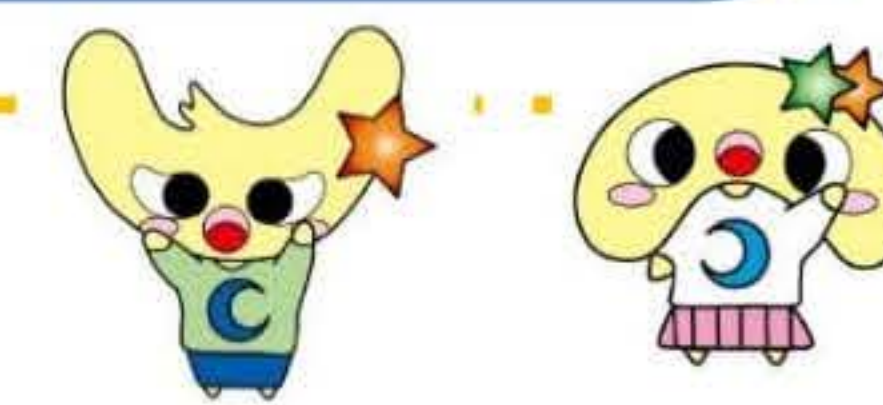
10月15日土曜日バスに乗って津田の松原海水浴場に地引網体験に行きました。網を引っ張る時はすごく重かったです。皆で力を合わせたので、たくさん魚が取れました。始めて魚を持った時は重かったです。最後の漁師さんにお礼を言って帰りました。

昼ご飯を食べてから、レクリエーションビンゴゲームをしました。捕り立ての魚は美味しかったです。その時が誕生日だったので良かったです。僕は、ビンゴゲームで、ビンゴになり、海で捕った魚をクーラーボックスに入れて帰りました。それを母さんに切ってもらい夜に食べました。

本当に楽しい一日でした。また来年も行きたいです。 会員 福居 圭一



ちょっと一息お茶をどうぞ



最近、世の中の情勢は、大きなため息の出る苦しい事ばかりです。そんな中、1年分ほどの笑いを子供たちからもらった話を記してみます。先日、青葉幼稚園で子供たちと一緒にシッティングバレーをして楽しみました。まずは、身体全体を使いウォーミングアップ。次は、4歳児にとっては手に余るほどの大きなボールでキャッチ・パスの練習。ここまでは、真剣勝負です。その後、お楽しみで、4グループに分かれ、7名の子供たちと円形になりパス回しをする事に。パス回しをするって、大変至難の業です。ポンポンとは続きません。”ポーン”とボールは子供たちの頭上を超え円の外へ逃げて行くばかりです。ボールが何度逃げようとも友達を咎める子はいません。「また、どこかへ飛んで行ったね」「難しいね」と、そのたびに笑いが円の中にこだまします。和気あいあいです。私の心も4歳児。子供たちからお腹が痛くなるほどの笑いをもらいました。どれだけ顔を見合わせて笑ったことか。2時間なんてあっという間でした。子供たちありがとう。

さらスポーツクラブの私たちはマスク姿でしたが、子供たちはマスクなしでした。ですので、私たちは子供たちの屈託のない笑顔を100パーセント見ることが出来ました。大人たちの顔の表情や口元を見て言葉の伝え合いが出来たらもっと笑顔と触れ合えたかもです。 高岡

編集後記

何かと暗い話題が多かった2022年も後、僅かで終わろうとしています。コロナ禍になり3年が過ぎました。感染者が増えたり減ったりを繰り返していますが、少しずつ明るい兆しも見えてきたように思います。年末には、この「さら新聞」が皆様の手元に届くと思います。今年もお世話になりました。新年もよろしくお祈りいたします。

代表 中田 賢二

さらスポーツクラブが目指しているもの

全ての人(子どもから高齢者に至るまで、障がいの有無に関わらず)が能力に関わらず生涯に渡り、気軽にスポーツ文化活動に携われる環境の場を提供すること、また世代や障がいの枠を越えた交流を通じて相互理解を深めることにより、つながりを持ちお互いの可能性を広げることを目的としています。

ご意見・ご感想： ☎087-813-5016 E-mail sara.takamatu@nifty.com

発行責任者：高岡憲美・光吉直哉・中田賢二

